

第 2 回射水市総合計画審議会 会議録

○日 時 令和 4 年 2 月 2 日（水） 午前 10 時～11 時 35 分

○場 所 射水市役所本庁舎 3 階 302～304 会議室

○出席者（敬称略）

（委員）

明石あおい、朝倉あゆみ、飯山進、岩口久梨果、上田秀永、牛塚松男、大坪清治、大西宏治、荻浦明希子、尾山春枝、加治幸大、門田晋、古池清一、笹川征一、鈴木真由美、高市洋介、塚本清、津田奈由子、釣谷隆行、樋上正之、二川由利子、牧田和樹、松本三千人、松本吉晴、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人、うちリモート参加 1 名

※欠席委員

川原辰弥、木田和典、中崎圭子、森由佳子、亘建邦

（当局）

磯部副市長、金谷教育長、島多市民病院長、園木議会事務局長、小塚企画管理部長、一松財務管理部長、桜川市民生活部長、小見福祉保健部長、宮本産業経済部長、島崎都市整備部長、橋本上下水道部長、夏野会計管理者、原教育委員会事務局長、吉岡監査委員事務局長、木田消防長、中野市民病院事務局長、杉本企画管理部次長、盛光政策推進課長

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事

（1）第 3 次射水市総合計画基本構想骨子案について

政策推進課長	※資料 1 に基づき説明
会 長	現行計画は 5 部構成だが、時代潮流なども踏まえ 4 部構成、14 章となっている。外出しの項目もあり、その置き方なども含めて部会での検討が必要になる。これは固定されたものではなく、意見を伺い、修正したうえで、各部会に議論を委ねてよいかを諮るものである。
会 長	説明いただいた内容で意見があれば出していただきたい。
委員 A	たたき台は素晴らしいものになっている。これを実現するとなると最終的には財政の裏付けが必要になる。これから議論していくに当たり、財政を勘案しながらやっていくべきなのか。
企画管理部長	総合計画の策定と併せて策定する実施計画において、中長期的な財政見通しを勘案しながら反映させていく。現時点においては、今後の方向性を議論いただくに当たり、財政面の制約をかけていくことは避けたいと考える。
会 長	基本構想、基本計画の実現のための実施計画において、財政的な裏打ちを考えるため、まちづくりの基本方針、射水市の将来ビジョンの検討においては、財政的な縛りにとらわれず、自由な発想をしてもらいたいということだと思ふ。
委員 B	主要課題が上がっているが、それらの課題の大元の原因は何であると認識しているか。例えば前回の計画であれば、人口減少が大元の原因という認識のもと、人口

	を維持をするために目標人口を設定して進めている。
会 長	今の発言の趣旨は、色々な現状から課題を抽出しているが、その原因となっているものに対応するための議論がないと課題の解決には至らないのでは、というものである。
企画管理部長	第3次計画の策定に当たり、第2次計画から変わっていないものとして、人口減少がある。その中でも東京一極集中、地方から都市部への若者の流出への対応が大きな課題であると認識している。また、射水市の特徴として、年々外国籍の方が増えてきており、多様性、多文化を認め合う環境を創っていくことも課題として目を向けていきたい。
委員B	そうであれば、今回の計画が目指すところは「人口」になると捉えてよいか。県がウェルビーイング、幸せ人口 1000 万として、定住人口ではなく「関係人口」に舵を切っている。定住人口なのか、交流人口、関係人口なのかでターゲットが違ってくる。どこをターゲットにするのかということに、この計画の意義があると思う。
会 長	資料には目標人口が示されており、これは定住人口を想定していると思うが、関係人口まで人口と捉えると考え方が変わるのではないかと、という意見である。また、定住人口についても、居住している人たちの満足度、ウェルビーイングを目指すのであれば、目標人口を達成すればいいのかどうか、議論が必要になる。
委員C	県の成長戦略の最初に「幸せ人口 1000 万」となっており、着眼点が違ってきている。今回の案では、関係人口は関連分野の例示の一つとして位置付けられているが、このように部分的に出すものではないと考える。関係人口をもっと前面に出さないと話がずれてくる気がする。事務局から外国人人口の話があったが、多様性を重視するのであれば、関係人口に力を入れて取り組んでいくべきではないか。
会 長	現行のたたき台では、関係人口は「にぎわいと交流のまち」に位置付けられているが、関係人口はここにだけ押し込められるものではなく、全体的なものではないかと、という意見である。外出しされている重点プロジェクトには、地方創生やDXなどが出てきているが、関係人口もこの中に入るような重要な概念なのではないか、という指摘である。
企画管理部長	委員の発言のとおりである。言葉足らずであったが、人口と申し上げたのは定住人口だけではなく、関係人口、交流人口を含めたものであると捉えている。居住する市民に幸せを感じていただくことが関係人口の創出につながるものであり、また、本市を訪れた方にも本市との関わりを深めていっていただきたい。このことは政策全般において意識していくべきものであると考えている。
委員D	気になるのは、トレンドの言葉を入れて安心してしまっている感じがする。例えば「情報技術でつながるまち」は、これだけが方法、ツールであり、目標ではない。また、情報技術はすべてのことにつながるので、わざわざ章立てすることで他の分野と関わらなくなってしまうのではないかと。
企画管理部長	重点（共通）プロジェクトに記載しているとおり、DXの推進については全体にわたって俯瞰すべきテーマであると捉えている。「情報技術でつながるまち」という章立てがふさわしいかどうかについては、部会で改めて議論いただければと思う。
委員B	関係人口がメインテーマになるのであれば、基本方針も関係人口のカテゴリーごとに作ってあげればいいのか。高齢者や若者、教育など、関係人口につながるようなカテゴリーで構成するほうが自然な気がする。
企画管理部長	たたき台で示している第1部から第4部の基本方針は、分野ごとに分けている。それぞれの基本方針にどの章立て、政策を位置付けていくかについては、部会において議論いただき、我々も検討を重ねていきたい。

会 長	各部のところに関係人口をどのように位置づけていくかを各部会で議論いただきたいという説明だったかと思うが、委員の希望とは少し距離があるようだ。ただ、基本構想として、射水市が自治体として取り組まなければいけないことを取りこぼしがないように全て入れるとこのような構成になるという側面はある。関係人口を中心に描いたときに取りこぼしがないようにするためには検討が必要になる。
委員D	基本方針－政策－関連分野という流れの中で、例えば子育てに関してはこの政策で議論すればいい、観光についてはこの政策で議論すればいい、となってしまう。資料の見せ方としてはこれでよいが、この分野はこの政策にも関連する、というような、関連分野の扱いがとても重要だと考える。関連する政策すべてに登場させるような扱いにしてもらえるとうれしい。
会 長	関連分野として位置付けられている政策だけで議論すればいいものではなく、他の部、政策でも議論が必要ははず、ということ、少なくとも委員の皆様と共有いただき、部会でもその認識で議論いただいたり、資料の提示においても意識していただいたりするとい。
企画管理部長	貴重なご意見でありがたい。部会ごとで委員の皆様の思い、意見を反映しつつ、共通理解を得ていただきたい。それぞれの政策、カテゴリーにこだわらず、関連する分野が横断的にあるかと思う。我々も、記載されていないから議論しなくていいという捉え方はしていない。3部会それぞれでとりまとめていただいた内容を重ね合わせながら、調整したり掘り下げなければいけない部分を検討し、改めてお示しさせていただきたい。 (休憩)
会 長	再開する。論文を書く場合は複数の目的を持つことはなく、例えば関係人口であれば関係人口に絞るのだが、総合計画はそのような性格ではなく、総花的な部分と重要な戦略とをどのように書き分けるかということがポイントになる。一つは外出しにするという方法もあるが、全体の方針に反映させたいということもあり、その辺りの綱引きになる。
委員E	人口問題について、計画期間の10年の間には2025年問題があり、その後2040年問題といった大きな課題がある。これらを医療・介護の問題として捉えたとき、担い手が不足し、行政の対応が難しくなり、地域がどのように関わっていくかが重要になっている。その際、外国人による人材確保やそれに伴う課題等にどのように対応していくかも問われる。また、県の計画では、ウェルビーイングという思想が新たに提起されている。地域住民が同じ方向に向かい、テーマ・課題となることを見つけていくことが、この審議会の課題ではないかと考える。
会 長	総合計画で基本構想を立てていく上では、市民の最大公約数となる方向性を示すのが大きな課題であることは、今回、皆さんで共有できると思う。それを考えるに当たり、その担い手がいないと成立しないということも踏まえて将来ビジョンを考えていく必要があるという意見かと思う。この辺りは審議会で議論するには大きいので、各部会で議論したものを全体会ですり合わせる形のほうが意見交換しやすいと思う。
委員F	令和14年の目標人口を8万6千人とした根拠は何か。また、この数値自体が議論の対象になるのか。
政策推進課長	目標人口については、人口減少対策に特化した「射水市まち・ひと・しごと総合戦略」に合わせて「人口ビジョン」を策定しており、2060年に7万2千人を目指すものである。その推計に合わせ、総合計画の目標人口を8万6千人としたところである。
会 長	この数値自体が審議会で議論する種類のものかどうか、事務局の感覚としてはどうか。

政策推進課長	この目標人口は社人研の推計を参考に設定しているものであり、国勢調査の新しい数値により、社人研の推計値が変わってくるようであれば見直すこともあるが、今の時点では、人口ビジョンとの整合性を図るという意味で、議論の対象外としたかと思っっている。
委員 F	たたき台では、基本方針が4部構成となっているが、この部数についても、議論の上でこだわる必要はないという認識でよいか。
企画管理部長	4部にこだわる必要はない。今後の議論の結果、部数が変わることはあってもいいと思っっている。
会 長	議論の中身を踏まえ、4部の構成ではない、別建てのものが出てくる可能性は全く否定していないということである。
委員 C	目標人口を8万6千人と設定するに当たり、政策的な効果は考慮されているのか。政策的な背景は影響するのではないか。また、先日、企画管理部長と雑談した際に、今の時代はひとつの部署で完結することが難しい多様性のある時代になっているという趣旨の発言をされていた。総合計画においても、各部、各章が相互に関連・連携していくことが重要であり、計画づくりに当たっては、行政の各部署の連携をより深められたい。関係人口については、重点（共通）プロジェクトに入れることもひとつである。同時に、第2部第2章「支え合う福祉のまち」の関連分野として、地域福祉という項目をぜひ設けていただきたい。これからの福祉は、地域を抜きには取り組めない。
会 長	それぞれの部署でオーバーラップして対応しなければならない課題がたくさん出てきている。そうなると、横に切っているのではなく、縦串を差すようなしくみも必要になってくるのではないか、というのが意見の1点目。また、例示されている関連分野の中に、重点プロジェクトに入れるべきものがいくつかあるのではないか、という意見である。
企画管理部長	目標人口に政策的な人口増減が加味されているのか、という点について、政策的な人口増を含めたもので設定している。各政策の相互連携がこれまで以上に必要であるということについては、おっしゃるとおりであり、組織としての部局間の横断的な連携はもちろんのこと、政策立案の段階で、どのような政策が相互に連携し、相乗的な効果を生み出すのかにも目を向けながら、今後も進めていきたいと考えている。関係人口の取扱いについては、福祉や産業振興、環境保全など、いろいろな分野において関連するテーマであると考えており、重点（共通）プロジェクトに位置付けるのはもちろんのこと、今後、各政策において議論をしていく際にも、関係人口について留意していただければと思う。
委員 G	前回審議会において資料としていただいた第3次総合計画策定方針の中に、策定の留意点として、未来世代から選ばれるまち射水の実現を目指すことと明記されている。この「未来世代」とは、どのくらいの年代を想定しているのか。
政策推進課長	未来世代というと若い世代というイメージがあるかと思うが、そういった意味ではない。若い世代も現役世代も高齢者の方も、明日、満足度の高い未来を見据えるような世代ということで、ある一定の年齢層として捉えるのではなく、全市民という形で捉えている。
委員 G	市民の未来を創っていくために、DXの推進、カーボンニュートラル、SDGsということらをテーマに掲げていると認識している。これらのテーマは、小学校・中学校など学校教育の中でも既に勉強されている。これから創っていく未来において、やはり若い世代が活躍するようなことを考えてやるべきだと思う。その意味でも若い世代のアンケート結果を勘案することは非常に重要であると考えているが、回答率がとても低いと感じた。これから回収率をどのように上げつつ、4月以降、新たに対象となる人にもアンケートを取りながら、若い世代の意見をしっかりと聞いてい

	くことが大事ではないかと考える。
企画管理部長	引き続き、若い世代をはじめ、それぞれの世代の方々の意見聴取に努めていく。アンケートという手法を用いるかどうかは、これから検討していく。
委員G	これからの射水をつくっていくためのひとつの手法として、若い世代に対して、回答しやすい方法でアンケートを実施すべきであると考ええる。
委員H	さきほど会長から縦串という話が出たが、県の成長戦略にある「ウェルビーイング」をひとつの縦串として意識しながら、部会を進めていったらどうかと考える。
会 長	縦串に当たるものが何かということについては、今後、皆さんの議論や事務局の検討が必要になってくるが、県の成長戦略など関連するものを想定するほうが、取りこぼしのない、色々なものを含んだ豊かな計画になると感じている。
企画管理部長	ウェルビーイングについては、肉体的、精神的、社会的に満たされた幸せを実感できる状態であり、その観点を意識しながら、総合計画全般において、部会での議論を深めていただきたい。事務局においても、その観点到留意しながら作業を進めていく。
委員F	前回審議会資料の策定方針の中で、留意すべき点が11点示されているが、これらが計画全体を通じて常に意識すべき観点であり、横断的な串になるものとして、各部会の議論において、具体的に検討する事項として入れていけばいいと思う。
会 長	これから各部会で議論を展開していくことになるが、部会の議論の中でも、できる限り横断的な視点を意識していただき、議論に参加いただければと思う。
会 長	ここまでの発言内容を汲み取り、資料に反映させ、この枠組みをたたき台として部会に協議を諮りたいと思うがよろしいか。いろいろな意見が出ており、このままの形ということではなく、これはひとつのたたき台として、まずは部会に諮ってみるということで、この形で提案させていただく。
	(異議なし)
会 長	それでは、少し修正した後、部会に資料として提出させていただく。なお、修正の確認については、副会長、会長に一任いただけるか。
	(異議なし)
会 長	では、一任いただいたということで、よろしく願います。また、今日、発言できなかったこと、時間が経ってから気づいたことなど、意見があれば机上の様式を使って、随時、事務局に送ってほしい。併せて、机上には「射水市の将来像について」という様式が配付されている。これは計画期間である10年後の射水市の姿について、各委員の考えを伺うものである。こちらについても事務局に提出願いたい。文章でもイラストでも構わない。何枚提出してもよいとのことである。
会 長	それでは、本日の会議での指摘、次回会議までに準備するもの、回答が必要なもの等について、事務局から確認をお願いする。
事務局	本日の会議での確認事項は、特段ないと思っているが、何かあれば事務局まで申し出てほしい。
会 長	皆さんに課されている課題としては、将来像をつくるということになる。また、声を掛けていなかったが、リモートで参加されている委員もいる。一言あれば願います。
委員I	いろいろなことが網羅されているが、選ばれる市にならなければいけないので、その視点で、北海道の東川町のように人口が増加するよう、目玉になるような施策を各部会で議論していけたらいいと思う。また、インクルージョンの推進とある

が、これからは排除ではなく、包摂のほうに向けるような射水市になるといい。

会 長

今後、コロナ禍が収束を迎えれば、こういった対面での会議は容易に開催できるが、どういう状況になるかわからないので、その際には、リモートと対面を併用しながらの会議になるかと思う。委員の皆様にも協力をお願いしたい。

4 その他

会 長

今後の開催日程について、事務局から説明いただきたい。

事務局

第1回部会の開催について、2月10日（木）午後7時から安全安心部会、2月15日（火）午後7時から未来創造部会、2月16日（水）午前10時から活力元気部会が開催される。会場はいずれも、射水市役所大島分庁舎3階大会議室である。第2回部会の開催は4月、第3回総合計画審議会を開催は5月を予定している。また、射水市の将来像に関するアンケートについては、2月18日までに提出いただきたい。

会 長

いよいよ来週から部会が始まる。射水市のまちづくりの方向性を決める重要な会議となるので、委員の皆様の専門的な知見で、積極的に発言いただきたい。また、先ほど、縦串を差すという話もあったが、他の部会のお話を聞きたいということがあれば、所属している部会以外の部会にもオブザーバーとしての出席が可能である。希望者は事務局まで申し出ていただく。

副市長

今日は2022年2月2日、2並びの日、春節そして友引であり、交流人口について話すにはこんないい日はなかったのではないかと考えている。資料で配付しているとおり、県にも総合計画、成長戦略があり、そこにはウェルビーイングや交流人口、関係人口1000万人ということが掲げられており、その中で市の総合計画を策定していく。委員の皆様には多くの意見を頂戴した。事務局としても、今後の議論の参考となる資料を作成、提出していく。今日、発言いただけなかった委員の皆様もぜひ部会でご発言いただければ大変ありがたい。引き続きのご尽力を賜ることをお願いし、あいさつとさせていただきます。

5 閉会

以上

射水市総合計画審議会 第1回安全安心部会 会議録

○日 時 令和4年2月10日（木） 午後7時～8時30分

○場 所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室

○出席者

（委員）※敬称略

上田秀永、大坪清治、加治幸大、門田晋、木田和典、鈴木真由美、高市洋介（リモート参加）、釣谷隆行、大西宏治（オブザーバー）

※欠席委員

川原辰弥、中崎圭子

（当局）

現地参加

一松財務管理部長、桜川市民生活部長、小見福祉保健部長、杉本企画管理部次長、小川財務管理部次長、塩谷市民生活次長、京角市民生活部副参事（環境課長）、北福祉保健部次長、星野生活安全課長、山口地域福祉課長、渡邊社会福祉課長、轟介護保険課長、明保険年金課長、高岡保健センター所長、盛光政策推進課長

リモート参加

島多市民病院長、中野市民病院事務局長、糸岡市民病院事務局次長（経営管理課長）、下村医事課長、木田消防長、竹内消防本部次長、土居総務課長、大隈防災課長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

（1）各部会の所管事項及び日程・協議事項について

（2）政策ごとの課題の整理と主要施策（案）の検討

政策推進課長	※資料1・2に基づき説明
部会長	皆さんには2つの観点を中心に意見を頂戴したい。1点目は、基本方針の構成や考え方について。たたき台では4部構成になっているが、基本方針につながる政策も含め、この構成が適切かどうか、他の構成の方が良いのではないかなど、自由に意見をいただきたい。2点目は、政策ごとに課題を踏まえた施策が記載されているかどうか。抜け落ちているような観点や施策はないか、ということについて発言をお願いしたい。また、それ以外でも感じたことや意見があれば自由に発言してかまわない。
委員A	第3次総合計画基本構想たたき台について、基本方針と施策がきれいに仕上がっているが、市民の目から見て、どのように物事を進めていくか掴みづらい。行政サイドから見てスムーズにできあがっているような気がする。構成自体を市民の立場、目から見てどうすればいいのか考えてはどうか。それと委員には各専門分野の方々があり、各委員の専門的知見が加わるといい。福祉・環境・防災は同じ部に記載されているが、関連性が薄く気になる。
部会長	例えば、たたき台の第4部などは協働と共創ということで市民主体を求めている。市民の方々の方が分かりやすく、自分がどう動けば射水市のためになるのか、とい

	うことがイメージしやすい基本構想であれば、全員で射水を盛り上げていく感じになると思う。
政策推進課長	あくまでもたたき台として、現計画を念頭に分類している。特に第2部については、福祉・環境・防災といった関連性が少し薄い分野で取りまとめたのではないかと、事務局としても悩んでいた部分がある。市民の方への見せ方の話だと思うが、構成の代案を事務局でも検討してみたい。政策につながる「施策」の部分はどのような構成になっても変わらないので、その部分についてこの場で議論していただきたい。代案については早ければ次回の部会で比較という形で示したい。
部会長	施策が基本構想とどうつながっていくか、うまく見えるようなものになればいいのかなと個人的には考えている。基本構想の枠組みの話をしているが、それにこだわらず施策に関する意見があれば出していただきたい。
委員B	コロナ禍で子どもたちもストレスをためている。カウンセリングをしていく中で、子どもたちの心のエネルギーを高めてもらう、笑顔を取り戻してもらう、そのために必要なことは、安心、安全、安定である。安心、安全が継続していくと安定になる。頭文字のAを取って「3Aの法則」というのがカウンセリングにあるが、この3つを整えてあげると子ども達が笑顔を取り戻し、心のエネルギーが高まる。現計画の目指すべき将来像に「あふれる笑顔」がある。安心、安全、安定が確立されていくと、そこに笑顔が出てくる。その中には健康や子育て、消防などいろいろなものが入ってくる。「関連分野の例示」として示されている事項を満たしていくこと自体が射水市の心のエネルギーの再生につながると思う。
委員C	所管にあるSDGsについて確認したい。第2次計画のときから、いろいろな活動そのものがSDGsという捉え方になっている。第3次ではそれを一層強く推進するようなものとなっているが、具体的にSDGsをどのように推進していくのか。例えば、目標の関わりを増やすのか、具体的な数字を設定するのか。射水市としてどのような特色を持って進めるのか、考え方を聞きたい。
政策推進課長	SDGsの推進については、重点共通プロジェクトに掲げているのはもちろんだが、細かい施策まで落とし込むか、別枠の重点施策として取り上げるか悩んでいる。逆に委員の意見を聞かせていただきたい。
委員C	SDGsは世界的な行動目標であるが、具体的なものはあまりない。各県、市町村もこれから取り入れていくと思うが、これを射水市の特徴として、具体的にいろいろな形でのSDGsを強く発信していてもいいと思っている。今は学校教育でも学んでいるため、より若い人のアイデア、思いを表すのもいいと考えている。
委員B	関連分野の中でSDGsでないものはどれか。地球規模で考えていくことは大事だが、行動は地道に、目の前にあることをやっていこうという考え方で、頭のてっぺんに地球規模で考えるべきものがあり、それを実際に足元で行動するにはどうしたらいいのかを考える。SDGsが別のところにあるのではなく、私たちは毎日やっているという話から入った方が、理解が深まるような気がする。
委員D	SDGsにこだわりすぎると抽象的になってしまうので、それを踏まえて具体的に射水市としてどう行動するのか考えたい。射水市は南北に長い市であり、里海、里山がある自然に恵まれた地域である。これをどうつなげ、射水市全体の交流をどうしていくのか、コミュニティバスは市民にとって有効に使用されているかなど、安全安心、有効に移動できる交通手段について議論していきたい。
副部会長	少子高齢化が進み、働き手が減少する中で、どのように財源を確保していくのかを詰めていく必要があるのではないかと。例えば、地域共生社会の実現を目指して事業展開する場合、現実的に財源が必要である。福祉政策を推進していくためにも財源の見通しを持っていないと先行きが綻んでしまう。ただ、お金がなくても「顔が見える関係づくり」はできる。小さなコミュニティの中で、そういうまちづくりを実践していくことが大事である。

	<p>2040年問題もあり、社会保障制度は崩壊していくということが指摘されている。そうした中、向こう10年間でどのようなことをしていかなければいけないのか、財源も含めて考えていく必要がある。そのために住民参加の方法も考える必要があると思う。</p>
財務管理部長	<p>基本構想を考える段階では、財源は考えずに射水市がどのようなまちを目指すかを考えていただきたい。実施計画を策定する際には財政見直しを作成し、それを踏まえて策定する。</p>
副部会長	<p>介護、医療の専門職員をどのように養成していくか、今から意図的に整備していかないといけない。</p>
委員E	<p>行政だけでは限界があることを感じている。一人ひとりの市民が施策の中でどのような関わりが持てるのかをもう少し深く話をして計画の中に反映できるという。</p>
部会長	<p>市民病院からリモートで参加してもらっているが、新型コロナウイルス感染症が診療に与えている影響について伺いたい。</p>
市民病院長	<p>感染症のピークアウトが見えない状況にあり、市民病院では感染対策の徹底、三密回避等に取り組みながら、感染症対応と通常営業を同時に行っている状況である。職員にもストレスが溜まっており、これは医療災害ともいえる状況だと捉えている。</p>
部会長	<p>リモートで参加している消防本部に伺う。新型コロナウイルス感染症が救急体制に与える影響はどうか。</p>
消防長	<p>なるべく通常に戻したいが、感染症の影響で現場滞在時間が延びているのが現状である。</p>
委員A	<p>射水市の公共交通について、コミュニティバスが現在17路線ある。地方都市でこれだけ抱えている都市はない。「無駄に多い」と言われたこともあるが、路線を維持できている射水市は素晴らしいと思っている。隣の市は乗らないで減っていった。17路線が多いのか少ないのか分からないが、会議でもう少し揉んで将来像を皆さんで話し合っ決めていくのも大事だと思う。また、タクシーは市内に3社あるが、高齢化しており人材が減少している。これに取って代わるものを考えていかなければいけない。</p>
委員D	<p>団塊の世代が、今後、免許返納するようになり、ますます公共交通がクローズアップされる。買い物難民も出てくる。コミュニティバスとデマンドタクシーをうまく組み合わせ、必要な時には惜しげもなく税金を使ってほしい。我々が幸せな生活を送るためには公共交通が必要である。</p>
委員C	<p>ゼロカーボンシティが記載されているが、再生可能エネルギーが注目されている。具体的な施策は県のビジョンと合わせた形で進めていくのがいいと考えている。具体的には、再生可能エネルギーを作っていくのではなく、温室効果ガスをどのように削減していくかをまず策定すべきと言われている。再生可能エネルギーはコストが高いため、作ったエネルギーをどのように使っていくかを考えていくことも重要である。これを農林水産、産業、教育の中で取り入れていくことがスタンダードな社会になっていく。市内には県の施設も多数あり、いろいろな形で新たな方向性を出しているの、そういったことも併せて計画の中に具体的に入れていくことが射水市の特徴になると思う。また、企業版のふるさと納税も盛んに行われており、外貨を獲得することも必要だと考えている。</p>
委員E	<p>児童福祉について射水市の住環境は素晴らしいが、医療・福祉の面で足りない部分があり、例えば、支援が必要な児童の相談が市内で出来ず、富山市や高岡市に頼らざるを得ない現状がある。誰一人取り残さない社会の実現に向けて、こういった立場の人でも受け入れ、心配せずに暮らせるための施策を盛り込んでほしい。</p>

部会長 関係人口を増やすとなると、いろいろな人がやってくることになる。もともと住んでいた人とどのようにコミュニケーションをとり、互いを理解し合い、安全安心に暮らしていくかが重要だと考えている。射水市は多文化共生を掲げているが、外国人から見た住みやすさ、働きやすさという観点の施策をいれてほしい。例えば、防災では、英語版のハザードマップがあるといいと思う。DXなども使いながら、みんなが幸せになれるまちづくりを目指せるといいと思う。

副部会長 県知事が言っている「ウェルビーイング」、肉体的にも精神的にも健康な社会づくりの追求のために、オンライン健康相談が非常に大事だと思う。市民目線で対応していくために、市民病院と市医師会が連携した体制をどのようにつくっていくかが大きなポイントとなる。

何かあったときに、ぜったい大丈夫だというメッセージを伝え続けていくという部分において、射水市の医療体制でもやもやする部分がある。例えば、健康診断の際などにオンラインの仕組みを使って、安心できるようなメッセージを送り続けることが大事である。オンラインを使っていつでもどこでも市民病院など相談窓口とつながることができれば移送問題への対応にもつながる。

部会長 本日発言のあった意見等で、基本方針に関する部分については、次回の部会で提出予定の基本構想素案に反映させることとする。また、政策や施策に関する意見は、基本計画の骨子案に反映させ、協議することとしてよろしいか。また、他の部会の所管事項に関する意見については、本部会の委員からの意見として各担当部会長に報告してよろしいか。

(異議なし)

部会長 それでは、そのようにさせていただく。なお、本日いただいた意見の次回資料への反映については、部会長・副部会長に一任でよろしいか。

(異議なし)

部会長 今日発言できなかったことや、後日気づいた点など、意見がある場合、机上の様式等を利用し、随時、事務局へお送りいただきたい。

4 その他

部会長 本日の会議での指摘や要請で、次回の会議までに準備するもの、回答が必要なものについて、事務局から確認をお願いしたい

政策推進課長 現在の構成を市民目線にという意見については、別の案として事務局で検討する。その回答を次回の部会で示す。

部会長 最後に、今後の開催日程等について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 第2回部会は4月の開催を予定している。基本構想素案、基本計画骨子案について協議いただければと考えている。また、第3回総合計画審議会は5月に予定しており、基本構想素案を決定できればと考えている。会議日程は調整の上、改めて案内する。

5 閉会

以上

射水市総合計画審議会 第1回未来創造部会 会議録

○日 時 令和4年2月15日(火) 午後7時～8時35分

○場 所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室

○出席者

(委員)

明石あおい、朝倉あゆみ、飯山進(リモート参加)、荻浦明希子(リモート参加)、樋上正之、二川由利子、松本三千人、松本吉晴、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人、大西宏治(オブザーバー)、鈴木真由美(オブザーバー、リモート参加)

※欠席委員

なし

(当局)

現地参加

園木議会事務局長、小塚企画管理部長、一松財務管理部長、桜川市民生活部長、小見福祉保健部長、夏野会計管理者(会計課長)、原教育委員会事務局長、吉岡監査委員事務局長、荒谷議会事務局次長(議事調査課長)、杉本企画管理部次長、長谷川財務管理部次長、塩谷市民生活部次長、北福祉保健部次長、久々江教育委員会事務局次長(生涯学習・スポーツ課長)、杉高教育委員会事務局次長、菅原未来創造課長、盛光政策推進課長

リモート参加

森田人事課長、作道総務課長、坂井財政課長、佐藤資産経営課長、高橋課税課長、板坂収納対策課長、松下地域振興・文化課長、田中市民課長、大居子育て支援課長、中川学校教育課長、明野監査委員事務局次長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

(1) 各部会の所管事項及び日程・協議事項について

(2) 政策ごとの課題の整理と主要施策(案)の検討

政策推進課長

※資料1・2に基づき説明

部会長

皆さんには2つの観点を中心に意見を頂戴したい。1点目は基本方針の構成や考え方について。たたき台では4部構成となっているが、基本方針につながる政策も含め、この構成が適切かどうか。2点目は政策ごとに課題を踏まえた施策が記載されているかどうか。抜け落ちている観点や施策はないか、ということについて発言をお願いしたい。

委員A

目標人口の根拠が記載されているが、この表現でどこまで理解が深まるのか気になる。審議会委員の皆が共通認識できるよう目標人口についての説明をお願いしたい。また、富山県では、コロナ禍で外国人の転入が減ったことが社会動態の人口減につながっているという見方をしている。射水市の人口ビジョンでは伸びているという表現になっているが、2年間のコロナ禍でおそらく減っていると思う。そうい

ったことも踏まえて、目標人口の内容がわかるよう説明の機会を持ってほしい。また、今回の案では 62 施策と、第 2 次の 49 施策から増えている。施策は増やす方向なのか。

企画管理部長

目標人口について、国立社会保障・人口問題研究所が平成 30 年に発表した推計では、令和 42 年の射水市の総人口は約 61,800 人となっている。射水市の人口ビジョンはこの推計に対して人口減少を抑制し、令和 42 年に 72,000 人の人口を確保したいとの目標を掲げている。今回掲げている目標人口は、これを総合計画最終年度である令和 14 年度時点で切り取った数字となる。

なお、令和 2 年の国勢調査は 90,742 人となっており、人口ビジョンで掲げている数値をわずかに上回っている。目標人口の考え方は、自然動態と社会動態を改善することが大切だと考えており、合計特殊出生率の上昇と純移動数の増加を目指している。

政策推進課長

施策数については、ありとあらゆる分野において精査したものを当て込んでいる。この数字が妥当かは今後の審議により調整したい。施策数にはこだわっていない。

委員 A

私自身も施策数にこだわっているわけではない。これからの審議を踏まえ、変わり得るか確認したかった。目標人口については、外国人の転入数が社会動態に影響していると思う。施策に占めるウエイトも変わってくると思うので、外国人対策を考える必要がある。外国人対策は文化の多様性などに関わってくるので、射水市の特徴を持たせていく施策につながると思う。

部会長

おそらく他の部会でも同じような議論が出てくると思うので、各部会の連携を進め、計画に反映できればいいと思う。

副部会長

射水市はイスラム系の人が多い。多文化共生においても、射水市ならではのものを構築できれば魅力的になる。コロナ禍で一時的に外国人人口は減っているが、政府が出入国の窓を開ければ留学生が大量に入ってくる。県・市レベルでできることではないが、早く窓を開けてほしいと思っている。

委員 B

基本構想の構成はこのような形でいいと思うが、前回の全体会の議論であった縦串、横串の話で、定住人口・交流人口のキーワードが全体を貫くものとしてあった方がいいと思う。すべての施策に定住人口・交流人口の考え方や視点が求められていると思う。○人定住、○人交流など、インパクトやメッセージ効果のある言葉を発することができれば伝わると思うので、検討していただきたい。また、交流人口の定義、考え方がないと良いと思う。

部会長

目標人口、定住人口、交流人口を念頭においた議論ができればいいと思う。

政策推進課長

定住人口、交流人口、関係人口を捉えながら大きく発信していくという意見が、前回の安全安心部会であった、構成、見せ方の再検討につながっていくと思う。市民目線で伝わるような見せ方を工夫したい。

委員 C

資料の赤字と青字になっている部分について、第 2 次総合計画にないものが赤字で、よりブラッシュアップするのが青字となっているが、黒字の事項は現在できているという認識か。また、赤字、青字はどのような根拠なのか。わかる資料を出していただきたい。

政策推進課長

なぜ赤字、青字になっているかについて資料として次回提出する。黒字については何もしないわけではなく、一定程度効果があり継続的に取り組むべきものと考えている。

部会長

最初をお願いした 2 つの観点以外についても、付箋紙を使って自由に発言、議論していただきたい。

委員 D

私の子どもが通っている小学校には外国籍の子どもが多い。そういった子ども達への学習支援が行き届かないという現状があるので、学校教育と多文化共生を絡め

たようなものがないかと思っている。また、G I G Aスクール構想についていけるかということも心配しており、苦慮している子ども達に手を差し伸べる施策があるといいと思う。

委員 A 12 ページにある「2. 空き家の有効活用」と「4. 移住・定住の促進」にある空き家の活用は明確に区分できるのか、考えを聞きたい。また、2 ページの「関連データ等からみる課題・特徴」に「全国・県と比べて核家族世帯、共働き世帯の割合が高い」とあるが、なぜ射水市では割合が高いのか、そのことをどのように捉えているのか、どの分野でどのように施策展開していくのか、考えを聞きたい。

企画管理部長 空き家の活用の違いについて、「2. 空き家の有効活用」の空き家活用は大きな意味での空き家の有効活用、あるいは空き家の適正管理の視点で考えている。「4. 移住・定住の促進」にある空き家の活用は、空き家活用を含めた移住定住の促進という分野で整理している。密接に関係している部分になるので、表現の仕方、施策への反映の仕方について工夫したい。また、「全国・県と比べて核家族世帯、共働き世帯の割合が高い」については、市町村合併以前から各自自治体が行ってきた、宅地供給施策の結果だと個人的には感じている。今後の施策については、核家族世帯、共働き世帯の割合が高いことをポジティブに捉えながら施策展開していくべきだと感じている。

委員 E スポーツを通じて地域が活性化できるよう、地域の方と何かできればと思っている。

委員 F 県内では若い女性の転出超過が深刻となっている。働き手不足、顧客減少、魅力の減退につながり、それがさらなる転出超過につながるという悪循環になることへの危機感を持っている。4 ページにある「女性が活躍できる社会環境づくりの推進」については、雇用環境に限らず、もっと広い意味で書いてあるという認識でいいか。県では、女性活用を進めるにあたり、女性活躍は企業の成長に結びつくという観点で企業に働きかけていきたいと考えている。射水市ではどちらかという、女性の活躍が経済成長につながるというより、女性が働きやすいような雇用環境の整備という方向性か。

市民生活部長 4 ページにある「女性が活躍できる社会環境づくりの推進」については、広義の意味での普及啓発を図るところに力点を置いている。男女共同参画にかかる施策の進行管理もある。一方、10 ページにある「雇用対策の充実と職場環境の向上」については、商工事業者に向けた働きかけを進めていくという建て付けとなっている。

委員 F 女性が働きやすい環境づくりはベースとなる観点だと思うが、もう一步踏み込んで、女性の持つ力で射水市をさらに成長させるという観点の取り組みもあるといいと思う。

部会長 これについては、次の方策、施策に取り入れていくという形で考えられればと思う。

委員 B ベイエリアを中心としたメインの観光資源だけではなく、周辺の渋いところも含めて観光振興に盛り込むべきだと思う。コロナ禍でマイクロツーリズムの需要も高まっており、渋いところの掘り起こしやブラッシュアップの気運を高め、受け入れる体制づくりを進めるべき。

また、陸の玄関口と言われている小杉駅に、人が出入りするだけでなく、情報の出し入れ、発表の場、人と人とを結び付ける機能、行政サービス、商業施設など、様々な機能を持たせることで、地域にある様々な課題が解決できるのではないかと考えている。都市計画マスタープランや小杉駅周辺のまちづくり基本構想を反映させる形で記載するべきだと思う。

各部会の情報共有が大事だと思う。また、結果報告書にあるメール等の意見は市民の意見だと実感している。夜間救急の設立はあちらこちらのグループで話題に挙がっており、そういったことの進捗状況が市民の耳に入っていない。途中経過などを市民に情報発信すれば、市民からの協力も得られるのではと思った。また、少子化・高齢化をワンセットで考えていけたら良いと思う。子育て支援の活動には地域

の力が不可欠である。委員の中だけでなく、市民にもわかりやすく提示してもらいたい。

委員C

女性の働く場をどうするかという話ばかりだが、女性の働き甲斐、キャリア教育、能力開発も力を入れていかなければならないと思う。2ページにある「希望する結婚・出産をかなえるための支援の充実」にもつながり、自信を持って女性として家庭に入る支援も大事である。また、12ページに「空き家の適正管理及び有効活用の促進」、「マッチングの充実による空き家の活用」とあるが、本当は空き家になる前の段階での対策が必要である。町内会など地域のネットワークでは空き家の把握は難しく、把握したところで活用まで中々結びつかない。コミュニティ施策と絡めて何かしてほしい。

部会長

本日いただいた意見、付箋紙に書いていただいた意見については、次回の部会での協議資料に反映する。次回資料への反映については部会長・副部会長に一任でよろしいか。

(異議なし)

今日発言できなかったことや、後日気づいた点など、意見がある場合、随時、事務局へお送りいただきたい。

4 その他

部会長

最後に、今後の開催日程等について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

第2回部会は4月の開催を予定している。また、第3回総合計画審議会は5月に予定しており、会議日程は調整の上、改めて案内する。

5 閉会

以上

射水市総合計画審議会 第1回活力元気部会 会議録

○日 時 令和4年2月16日(水) 午前10時～11時30分

○場 所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室

○出席者

(委員)

岩口久梨果、大西宏治(リモート参加)、牛塚松男、尾山春枝、古池清一(リモート参加)、笹川征一、塚本清、津田奈由子、牧田和樹、森由佳子、亘建邦、鈴木真由美(オブザーバー、リモート参加)、宮城克文(オブザーバー)

※欠席委員

なし

(当局)

現地参加

小塚企画管理部長、宮本産業経済部長、島崎都市整備部長、杉本企画管理部次長、福井産業経済部次長、南都市整備部次長、菅原未来創造課長、片口商工企業立地課長、久々江港湾・観光課長、遠藤農林水産課長(農業委員会事務局長)、橋本都市計画課長、山口道路課長、酒井建築住宅課長、高橋用地・河川管理課長、盛光政策推進課長

リモート参加

橋本上下水道部長、吉田上下水道部次長、堀上下水道業務課長、前田上水道工務課長、山下水道工務課長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

(1) 各部会の所管事項及び日程・協議事項について

(2) 政策ごとの課題の整理と主要施策(案)の検討

政策推進課長

※資料1・2に基づき説明

部会長

「活力元気」は、人の動き、交流がないと生まれない。射水市に関係する人を増やし、交流する人を増やし、定住人口を増やしたい。本日は、資料の項目に対する意見ではなく、身近なところで感じていること、こんなことをやったらいいのではないかと、どのようにしたら交流が生まれるか、射水市に関係する人を増やしていけるか、関係人口を増やすために有効だと思うアイデアを出してほしい。

委員A

ニッチな市場でも1万人いれば1人のニーズがあると言われており、射水市に1万人来てくれると1人は住みたいと思う人が出てくると考えられる。ただ、その人が住める環境かどうか、という別の問題が出てくる。そういう人達を掴むというのはどういうことなのか、ということを考えてもらえればと思う。

部会長

県立大学の規模を拡大して大学生をたくさん呼ぶ。また、美味しい料理のお店を増やす。2次交通をスムーズにする。

副部会長	<p>首都圏の大学の体育会系合宿の誘致を進めると、学生が滞在し、射水市を知ってもらえたり、新しい学生目線の意見を得ることができると思う。</p> <p>期間限定で首都圏の学生を対象にした農業、漁業などの就労体験を実施する。</p> <p>古民家や空き家を改装する形で射水市をより知ってもらえるような滞在型の企画をしてはどうか。</p> <p>首都圏など富山県外をターゲットにリモートワークを活用した2拠点生活を推進する。</p>
委員B	<p>空き家・古民家再生の観点からの意見になるが、集落単位で得意なことや方向性をまとめるための出前講座を実施してはどうか。</p> <p>空き家バンクについて、空き家のリフォーム後を3D化したり、どんな世帯に向けた住宅かアドバイスをするなど、分かりやすい情報発信を行う。また、空き家のDIYツアーを実施してはどうか。</p>
委員C	<p>女性が都会の大学に行って戻ってこないのは、地元働く場所がないからであり、地元の人々が努力して、喜んで戻ってきてもらえるようにする必要がある。子育て過程において、射水市の伝統文化教育等を実施して、地元へ愛着を持ってもらうことが大事である。また、漁業者の生活体験を実施したあとに交流が続いていた経験があり、職場体験があってもいいと思う。</p>
委員D	<p>4月末にオープンするフットボールセンターには、AIカメラとローカル5Gを設置している。これを合宿誘致につなげることができればいい。</p> <p>また、PFIでベイエリア周辺にグランピングを誘致することや、映画の誘致ができないかなと思っている。</p> <p>富山県のスマホの保有率は、2021年に全国で2位となっている。スマホの時代であるため、どのようなアプリを作るかが大きなポイントになる。アプリを使った情報伝達を広めないといけないが、そうすると高齢者が取り残される。そのため高齢者向けスマホ教室を開催することが必要だと思う。</p> <p>DXは住みやすさの一番重要なツールとなる。これを見える形でどのように実施していくかが課題である。</p> <p>射水市は「ゼロカーボンシティ宣言」をしなければならないと思う。富山県内で際立つ形になれば良いと思う。</p>
委員E	<p>若者の出会いの場の創出があるといいと思う。人と人の出会いのみならず、食べ物との出会いや伝統芸能との出会いなど、そういったものと触れ合える機会・場を提供すれば、つながりが生まれると思う。また、イベント団体同士の意見交換の場や勉強会の場の提供があるといいと思う。</p> <p>利用している地域の店では、後継ぎがないために店を閉めようとしており、後継者を探しているお店と経営者になりたい人とのマッチングの仕組みがあると上手くいくと思う。</p> <p>除雪を求めている高齢者とバイトをしたい若者とのマッチングの場があると、除雪と併せて地域の交流も深まるのではないかと思う。</p> <p>現役世代が活用しやすいよう、アプリなどを活用した空き家情報網が整備されるといい。</p> <p>自治体と学生の交流について、例えば消防団に参加することで家賃補助などがあればいいと思う。さらに空き家のシェアハウスなどをつなぐことができればと思っている。</p>
委員F	<p>事業所を増やすことが重要になってくる。大きな会社を誘致して就労者を増やすのはもちろんだが、若者が個人で店を出したいニーズに応えることも大事である。ただ、場所がない、支援を受けられないといった課題をよく聞くため、空き家の活用などができればいいと思う。また、商業の活性化も大事だと思う。日常生活は問題ないが、少し変わったことをしようとすると市から出ていってしまうため、个性的なお店を出したい人への支援体制を強化してもいいと思う。</p>

	<p>大学のカリキュラムの中に地元企業との連携を増やし、大学在学中から射水に残って働きたいと思ってもらえる風土を醸成し、大卒者の射水市内への就職率を上げていく必要がある。</p>
委員 G	<p>仕事で交わる以外の非日常的なコミュニティが求められる傾向にある。そのため、射水を起点として定期的に行うイベントやチームでの活動を確立していくことが大事だと思う。</p> <p>農業やまちづくり、漁業などのコンテンツでチームとなり、どこかが一括編集・発信する仕組み、地域ぐるみで発信していく体制づくりができればいいと思う。</p> <p>普段交わらない方々のコミュニティがあれば良いと思う。</p>
委員 H	<p>交通網の発達などで中京圏、名古屋が近くなったように感じている。そういったことを利用して、消費者と産地の交流や観光につなげられればと思う。</p> <p>家賃が高いと学生が住まない。そうすると学生が増えない、賑わいが生まれにくい、施設等ができない、の悪循環になる。学生は車がない人も多く、近場に住みたいと思うので、住宅関係について考えることができればと思う。</p>
委員 I	<p>観光、産業どちらにもとれるが、「地域の個々の魅力をストーリーでつなぐ」ということに関連して提案したい。観光に関しては、団体旅行から個人旅行に移行しており、地域を知る体験型の旅行を要請されたり、地域の成り立ちなどストーリーを聞きたいと言われる。空き家、グランピング、映画など個々のストーリーをつなげていくとニーズに合うと思う。地元の当たり前を物語としていくことが、来てもらえるきっかけや人の動きをつくることになると思う。</p>
委員 A	<p>修学旅行の誘致をしてはどうかと考えている。立山町では、大阪の中学生に簡単な農業体験をしてもらう農家民泊を実施しており、秋や収穫時期に家族連れでもう一度訪れてくれるケースがある。多くの人に射水市に触れてもらう、来てもらうきっかけ、仕組みがあるといいと思う。特別な観光地でなくても、生活の豊かさを感じてもらえれば、大人になってから思い出してもらえらる。</p> <p>県外出身の射水市内の大学・短大・高専・専門学校学生の卒業後に第2のふるさととして関わる仕組みがあるといいと思う。職種、働き方を20代でみるのではなく、30代、40代になった時に戻ってこられる仕組みを考えてもいいと思う。そのために生活満足度を上げ、発信してもらうことが重要である。</p>
委員 J (オブザーバー)	<p>空き家の認定までの基準を緩和し、認定までの期間を短くすべきだと思う。</p> <p>マイクロツーリズム対応として、市内に眠っている観光資源になりうる渋い資源を掘り起こすことが大切だと思う。ディープな射水市の魅力を掘り起こすべきである。また、小杉駅に人とまちをつなぐ機能を持たせるべきだと思う。小杉駅はライトな関係の人の利用が多く、そういった方に情報を発信して縁を結ぶのはどうか。</p> <p>DXの面では、高齢者はテレビが身近なので、テレビを活用してはどうか。</p> <p>また、現役世代が地域に関わりやすくなるような仕組みの検討や、応援する機運の醸成を図れば良いと思う。</p>
委員 K (オブザーバー)	<p>外部から人を呼び込む時の話として、観光以外で射水市に来られる方に対して、古民家に滞在してもらおうなど、射水市をもっと知ってもらえる活動があるといいと思う。</p>
副部長	<p>外から人を呼びたいというのと、地元の人が地元を良く知り発信するという両輪が必要だと感じた。射水市の良い記憶を良い状態でターゲットを絞って発信することが大事だと思う。</p> <p>DXとして、仮想空間で射水市の強みをPRして見に来てもらうところから、実際に足を運んでもらうことにつなげるのはどうか。</p> <p>高齢者だけでなく小学生など誰でも簡単に乗れる移動手段を考える。</p> <p>地域を知る取組として、電子回覧板やテレビで地域情報が分かるような施策を考えてもいいと思う。</p>

一方的に発信するだけでなく、発信したら返してもらえる双方向のやり取りができるといいと思う。

部会長

本日いただいた意見等については、次回の部会での協議資料に反映する。次回資料への反映については事務局と私に一任してほしい。

次回の部会の前にもう1回こういった機会があるといいと思っているがいかがか。

(異議なし)

部会長

では、日程調整の上、もう1度機会を設けたい。

4 その他

部会長

最後に事務局から連絡等はあるか。

事務局

今後の予定については改めて調整させていただく。全体会については5月頃にできればと考えている。

5 閉会

以上

射水市総合計画審議会 第2回活力元気部会 会議録

○日 時 令和4年3月10日（水） 午後7時～8時30分

○場 所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室

○出席者（敬称略）

（委員）

岩口久梨果、牛塚松男、大西宏治、尾山春枝、古池清一、笹川征一、津田奈由子、牧田和樹、森由佳子、亘建邦

※オブザーバー：鈴木真由美、門田晋、宮城克文

※欠席委員：塚本清

（当局）

現地参加

小塚企画管理部長、宮本産業経済部長、島崎都市整備部長、杉本企画管理部次長、福井産業経済部次長、南都市整備部次長、片口商工企業立地課長、久々江港湾・観光課長、遠藤農林水産課長（農業委員会事務局長）、橋本都市計画課長、山口道路課長、酒井建築住宅課長、高橋用地・河川管理課長、盛光政策推進課長

リモート参加

橋本上下水道部長、吉田上下水道部次長、堀上下水道業務課長、前田上水道工務課長、山下水道工務課長、

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

（1）政策ごとの課題の整理と主要施策（案）の検討

政策推進課長	※資料の確認
部会長	資料1は、第1回部会での皆さんからのご意見の右側に、事務局に役所的な観点から「できない理由」を書いてもらったものである。施策を進める上で、必ずこういう壁にぶつかるので、事前に理解してもらうとともに、実現するためには、これを乗り越えていかなければいけない。どうやって乗り越えていくかを今日は考えていただきたい。すぐには出ないと思うので、5、6分でまとめてほしい。 (各自、ポストイットへ記入)
部会長	発言いただくときのポイントを紹介する。まとめた資料の意見は、ターゲットとなる世代ごとに分けている。「子ども」、「学生」、「若者」、「現役」、「市民全般」となっているが、ここに「子育て世代」をカテゴリとしてあると思っている。本部会の目的は、活力を生み出すことであり、活力は関係人口をいかに増やすかということである。関係人口をつくるには、きっかけをつくる段階、次に行動の段階、最後にそれらが継続する、の3つの段階がある。この3つの段階を意識し、それぞれの段階でどのようなことが必要であるか、という観点で発言いただきたい。
委員A	前回は、空き家を使ったDIYツアーを提案した。これについて、きっかけは、ツアーへの参加、行動は、ツアーでのDIYの実施であり、このツアーに何回か参

加している中で、射水はいいところである、手がけた建物に住みたい、という定住につながるのではないか。

委員B 前回、観光の面から意見したが、世代は「他」になるのか。

部会長 そこに、リタイアされた方、高齢者の方なども入ると思う。全国の人が対象である。

委員B きっかけは、そこに行きたいという思いであり、その思いをつくっていくためにはPRしかないと思う。今は個人旅行がメインになっているので、SNSなどを使っていくのがいいのではないか。拡散させるのに一番いいのは、インフルエンサーとうまくやっていくことである。富山出身の人気ユーチューバーとうまく連携していくのはどうか。

行動としては、訪れたときに楽しさを味わえるコンテンツづくりであり、今求められているものは、歴史や体験などをつなげたストーリーである。観光庁の資料をみても、極小部分を深く掘り、それらを線でつないでいく、面にしていくという地域磨きに補助金がかかり出ているので、それを活用していくのがよいと思う。

部会長 ストーリーテラー、物語性が重要である。

委員C 定住人口について、県立大学の理事長と話をしたとき、「教職員が市内にいない。富山や高岡から通おうとしている。」という話があった。射水市に大学や専門学校があるのに、教える側が外にいる。定住人口を増やすには、教職員向けのマンションに入ってもらるか、空き家をリフォームして一軒家に入ってもらうのが簡単であるが、射水市はどちらもない。学生だけでなく、教職員にもアプローチすれば、学生以上に長く継続的に住んでもらえる。ターゲットを明確にしたほうがよい。

また、DXについて、今はアプリの時代であり、市民に情報伝達するには、射水市アプリを持つことが一番手っ取り早い。ただ、行政で作ってしまうと行政の仕組みにしかならないので、民間で開発していくことが重要である。

部会長 いろいろな場面でのアプリがあると思うが、一番効果を発揮するのは、きっかけ、行動、継続のどの段階だと思うか。

委員C 総合情報であり、ありとあらゆる場面で効果を発揮する。プラットフォームさえ作ってしまえば、いろいろな情報を載せられる。その仕組みをつくるのが手っ取り早い。

部会長 簡便かつ迅速に情報を手に入れられるようにするということか。

委員C そのとおり。空き家情報でも、子育て情報でも。

委員D 大学の立場から、学生に射水市を第二のふるさととして関わる仕組みづくりがうまくいくといいと思っている。学生アイデアコンテストに参加させてもらったが、非常に面白いアイデアが出されており、すごいと思った。そのものは使えないかもしれないが、そのアイデアをうまく取り込んでもらえると、学生は自分のアイデアが射水市に取り込まれたことで思い出になる。また、それを実現するためには学生だけではできないため、行政や市内の企業、場合によっては市外の関係者とも関わるができる。そのことが継続されれば、大学、市、地域やいろいろな世代がうまくつながることができるのではないか。

委員E 学生からまちづくりのアイデアを募る取組は富山市でもやっている。毎年実施しているが、各年で採択された取組がその1回で終わってしまう。本当は、企業や商工会議所などが引き取り続けていけば、提案をした学生はそこをふるさとと感じたと思う。きっかけ、行動はあっても継続がない。継続するためには大人の力が必要であり、我々が支援しなければいけないところが出来ていなかった。アイデアを拾い、どう継続させていくかを考えていく必要がある。

また、私は、子育て中に大島絵本館やこどもみらい館をよく使わせてもらった。射

水市には、冬でも利用できる屋内型の施設が充実している。これらを活用し、イベント等をきっかけとして全国から人が集まり、楽しんではいるが、さらに繰り返して来ようというところが出てこないといけない。特徴的なハードがあっても、それを「磨き切る」というところが足りないのではないか。

部会長

磨き切れていない要因、磨き切るために必要なことは何か。

委員E

そこに関わるプロフェッショナルな人材をどれだけ投入できるか、という気がする。それぞれ仕事としてパーフェクトにこなしているかもしれないが、さらにその上がないと、繰り返しがずっと続くだけになっている。

委員F

現役世代のきっかけは、就業することが一番だと思う。行動としては、学校と連携した職業体験など、卒業生が残ってくれる環境づくりを地道にやっていかなければいけないと思う。働く場所がないということは決してなく、どちらかという人手不足の事業所が多い印象である。その中で、射水市として人を集めるのであれば、情報の使い方が非常に重要になってくると思う。働く人が増えれば、結婚する人、子どもをつくる人が増えてくる。

継続については、住環境でアプローチする。空き家の活用やマンション、アパートの整備など、民間と一緒に進め、若い人でも住み易い低価格、低コストの住環境を整えていく。射水市は商業において魅力があり、個人の店舗など特色あるお店が増えていけば定着すると思う。

委員G

射水市に住んでもらう、ずっと住み続けてもらうためには、子どもの頃からいろいろな体験をし、やっぱりここが一番いい、都会で大学4年間を過ごしても地元に戻ってくる、という体験をさせたい。14歳の挑戦や高校の体験学習、海岸清掃への参加等を通じて、地域の大人とのつながりもできる。子どもたちも巻き込んで地元を良くするために考え、行動していくことが大事だと思う。

委員H

最近、本社がない企業が増えたり、パソコンひとつで仕事ができる働き方をしている人が増えている。射水で半日働き、半日観光、など旅行しながら働くワーケーションを取り込んでいくといいのではないか。特に独身の人に来てもらい、射水市の女性の人と出会うきっかけになればいい。働く場が限定されない分、射水がいいと思ってもらえればずっとここにいてくれると思う。夏休みなどに家族を連れてきて、父親は働きながら過ごし、子どもはいろいろな体験をするプチ暮らしをしてもえたらうれしい。

部会長

プチ暮らしをするために、まず必要なものは何か。

委員H

プチ暮らしのための場所。空き家など。また、学生のアイデアを取り込むことに関して、商工会や企業でなくても、サポートしてくれる大人がいるだけで、出来ることの幅が広がる。やってみたら、と後押しをしてくれる大人が増えたらいい。

委員I

県出身者でもない県外の学生で、一度だけ射水市の伝統文化にふれ、それに感銘を受けて、学校を休学して射水市で活動している人がいる。その人は、既存とは違う、非日常的なコミュニティを求めている、かつ、ありふれているデジタルコンテンツではない、伝統的なものに触れたい、ということで祭りに参加されたとのことである。人から誘われる、ということが一番、行動につながるようだ。射水市の多種多様な団体の方々を巻き込み、広げていってもらうことで、参加する人が増えていき、その中で、まちのために働く意欲のある人が力をつけていき、リーダーシップを発揮する人として成長していけば、世代交代もうまくいくと思う。

そのためにも、団体間のコミュニティをつくることができたらいのではないか。県外の人が縁のなかつたまちのために動いていることに対し、地元の人が刺激されて頑張っている人もいるようだ。

部会長

ちなみに、曳山に連れてきた人はどんな人か。

委員I

人手が足りないから、手の空いている人を誘ったのかもしれない。

部会長	曳山を曳く人がいないから連れてきて一度曳かせたらはまってしまったと。
J委員	<p>かつて、老人施設の誘致の話があったとき、多くの反対意見がある中で、私が熱量を込めて訴えたところ、大門の役場、小学校の近くに老人施設が建設された。そうすると、子どもたちの姿を見てお年寄りが元気になる、そこに病院が集まる、学校も近く安心して生活できる環境があるということで若い世帯が集まり、その一角だけ子どもがどんどん増えてきた。来てくれと言わなくても勝手に集まってくる。どんなまちづくりをしていくかのアイデアが大事である。</p> <p>また、学生たちがここに来て勉強していても、黙っていたら帰って行ってしまふ。学生をきちんとフォローし育てて呼び込むことが大事である。コロナ禍で遠い学校に行けないということであれば、ここに魅力あるまちづくりへの参加の場をつくっていけば、必然的に関係人口、定住人口も増えていくのではないかと。</p>
K委員	<p>先ほどの意見を実現させるための機能を、射水の真ん中の小杉駅に持たせることができれば、いろいろな地域課題が解決するのではないかと考えている。</p> <p>例えば、立山町の五百石駅では、コミュニティホールやギャラリー、図書館、交流サロン、ミーティングサロン、保健センターが設置されている施設を町が整備している。</p> <p>県外では、長野県の中軽井沢駅には、しなの鉄道と軽井沢町が協働で図書館やカフェ、観光案内、チャレンジショップなどがある施設を整備している。こうした機能を使っているいろいろな人たちがつながり、生きがいを見出し、活躍することで、じわじわと効果が市域全体に広がっていくことが期待できる。市民合意を得て、資金面では民間活力の活用や国・県の応援も受けながら、実現に向けた道筋ができたと思う。</p>
部会長	そうした拠点をつくるというのは、交流を創り出すということか。
K委員	交流が生まれる入口をつくったり、射水について知る場が生まれる。
副部会長	<p>限られた期間で効果を上げていくためには、他県の事例などを参考にしながら、即効性のあるものをちょっと先にあるものにつなげていく取組を考えていったらどうかと思う。</p> <p>射水市で働いている井口村在住の人が、射水市に移住してこない理由について、井口村は子育ての手当がすごく厚いからという話があった。子育て家庭の親に対して、何があれば定住したいかについてヒアリングをしたり、射水市に住むきっかけづくり、仕組みづくりをしていかなければいけないと思った。併せて、補助金などメリットについて、ちゃんと情報発信していくことが重要である。</p> <p>また、金沢工業大学の学生と交流する機会があったが、空きスペースを活用して事業化し、運営資金やバイト料に充てる収入を得ている活動をしていることを知った。そういった新しい創業のきっかけづくりは、富山大学や県立大学でも教えているのではないかと。そうしたチャレンジに空き家を活用したり、それを拠点として地域の皆が関係し合える形づくりができればいい。地域の人たちも若い人たちの頑張りを応援したいと思う。うまく巻き込むような仕組みができ、そこから少しずつ関係者をつくり、定住につなげていくという取組ができればいい。</p> <p>資料の中で、電子掲示板の普及という意見に対し、結ネットに取組中と書いてあるが、役所から出される回覧の内容だけでは面白味がないため、もっと回覧板をみてもらえるコンテンツについても考えていったらいいと思う。</p>
部会長	ひと通りご意見を頂戴した。今までの意見をお聞きになり、事務局から意見はあるか。
企画管理部長	どうやって継続性を担保するのか、資金面、人材面を含め、どのように構築すればいいのか、思いを巡らせながら話を聞かせていただいた。また、価値観の多様性、違いを射水市は認めている、だから、いろいろな人に射水市を訪れてほしい、住んでほしい、関係を紡いでほしい、というアナウンスが、これからは必要であると感じた。

部会長	金、人をどうするかという話があったが、こうすればいいというアイデアはあるか。究極の課題だと思う。専門的な人材の配置でもお金がかかってくる。
委員B	役所側は補助金をカンフル剤だと思って出しているが、それがいつの間にか麻薬になっているというのが現実である。一番いいのは、カンフル剤で「人をつくる」という部分が大事だと思う。ちょっとしたお金で影響力のある人を引き込む。中の人を育てるのもいいが、中の人を気づかせるために外の人を持ってくるというのが一番いい。本物のインフルエンサー、影響力のある方々にカンフル剤を投入してもらい、そういう人たちの発信力を活用して教育につなげていく、ということも考えられるのではないか。
部会長	そういう取組の事例は射水市にあるか。私が知る限りない。
委員B	富山はすごく地縁者を大事にする県だと思う。リタイヤされた地縁者を引き込み、まちづくりを進めていくとか。軽いインフルエンサーと重いインフルエンサーを使い分けながら、そこにカンフル剤を投入するというは、一つの道としてはあると思う。
産業経済部長	関係人口を増やしていくには、まずは射水市を知ってもらうことが大切であり、今であればSNSを最大限活用していくことが効率のいいやり方であると思う。それを具体的にどうするかが課題である。 実際に行ってみようとなったとき、訪問先が質の良いものでなければならない。そういったものをいかに増やしていくかということも大事だと思う。子どもを対象とした施設でも、大島絵本館やこどもみらい館と、東京ディズニーランドやサンリオピューロランドでは、子どもがどっちに行きたいかという、当然後者に行きたいと言う。その差は何かというと、突き抜けた感覚やそこで事業をやっているという覚悟の差ではないか。そういう人たちをいかに射水市に来てもらうことが大事ではないかと思う。最終的には、何かをやっていくにはお金が必要であるという現実がある。
部会長	切り口として大事なことは、これからは行政といえども稼がないといけない。使うことばかりでなく、どうやって付加価値、お金を生み、それを次に回していくかについて真剣に考え、今度の総合計画にそういったポイントを入れていかないと。東京ディズニーランドをつくるときに、大島絵本館と比べてどれだけのお金をつぎ込んだか、それによって経営破綻せず、次々とお金を生んでいる。これからはその発想も大事である。
委員C	行政が稼ぐという視点もあるが、民間資金を投入するということが必要であり、そのためには、行政サイドで魅力あるステージ、フィールドを用意してもらい、投資してビジネスとして成立するような要素がないと誰も投資しない。儲ける意識というよりも、どうしたら少ない投資で市民に喜んでもらえる環境がつかれるのか、という視点が大事な気がする。一定の利益が出ないと継続性が保てない。少ない投資で一定の利益を出すことができる環境を整えることに注力していかないと、民間企業は乗ってこない。その舞台を整えることが課題であると思う。
企画管理部長	前回、今回といろいろな取組、施策のヒントをいただいている。一つ一つ実行していったときに、それぞれが小さくてもいいので、すべてにおいてビジネス性があり、小さな枠の資金の循環が止まることなく続いてほしい。そうでないと、どこかで金の切れ目が縁の切れ目になってしまう。10年20年、さらに30年40年と、まちの姿がどう変わっていくかをみんなで見れるくらいの長い継続性がほしいと考えている。
都市整備部長	空き家は、地域課題の解決のヒントになり、活用できるが、空き家を把握したときには朽ち果てており壊すしかない。市場に回る段階での空き家対策が重要である。

上下水道部長	上下水道部の所管として水の安定供給がある。当たり前にあること、日頃の生活が幸せであることになかなか気づいてもらえないところがある。個人的な意見であるが、射水市の中に若い人たちが楽しく過ごせる場所があればいいと思っている。射水市には海があり、その近くでアウトドアが楽しめる施設があればいい。
部会長	遊びに行きたいところで思いつくところはあるか。
委員E	富山市に何が足りないか大学生に聞いたところ、遊ぶ場所がないという意見があるが、よく精査するとそんなに遊ぶ場所がないわけではない。1年に1回しか行かないようなディズニーランドはないが、そうではなく、自分たちで遊ぶということを作り出していないというところが問題である。そのことに、若い人たちに気づいてもらう機会があればいい。
部会長	ほかに気づいたことがあれば発言いただきたい。 (意見なし)
部会長	本日いただいた貴重な意見を事務局で計画の形にまとめていくが、このことについて、部会長、副部会長に調整を一任いただきたい。 (異議なし)
産業経済部次長	今日発言できなかったことがあれば、事務局にメール等で送ってほしい。

4 その他

事務局	次回部会を4月に開催し、新しい枠組みの事務局案をお示しするのでご意見をいただきたい。その後、再び5月に部会を開催するので、その段階では、基本構想素案と基本骨子案を固めていく形を考えている。日程については改めて案内する。
部会長	次の部会では、具体的にどんな意見を伺えばよいのか。
政策推進課長	初めに提示した構成案は行政寄りで分かりにくいというご意見に対し、事務局として市民目線での構成として考えた案を提示するので、次回部会は、それを議題にして開催したい。その枠組みが了承いただければ、5月の部会では、その枠組みに沿って、今回のご意見を入れ込んだ形での案をお見せしたいと思っている。
部会長	新しい枠組みで、前回と今回の委員からの意見を入れ込んだものを次回に出すということか。
政策推進課長	頭出しで一部出てくるところもあるかと思うが、最終的には5月の部会で細かなところまでお出ししたい。次の部会では、項目出しの部分だけ意見を反映させた枠組みを提示し、その次に文章化された具体的なものを出したい、そういったイメージで進めたいと考えている。

5 閉会

以上